

令和7年度
「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立九条東小学校
令和8年3月

大阪市立 (学校園名) 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は昨年度2月に創立150周年を迎えた歴史と伝統のある学校である。児童は、のびのびと学校生活を送り、日々落ち着いた環境の中で学習を行っている。児童数は年々減少しており、40数名の小規模校である。令和11年4月には近隣校との統合が決まっている。

少人数のため学年の子ども同士のかかわりが、どうしても少なくなることから、できるだけ多くの友だちと接する機会を作り、体育・図工などの教科やスポーツフェスタ(運動会)・音楽発表会、遠足等の行事について、隣接学年と合同で取り組むようにしている。さらに、令和4年度からは、学校全体の子ども達が、仲良く協力して活動できるように、異学年と交流する機会を増やすようにした。隣接学年や異学年との交流活動を活性化することで、互いの違いを認め合い、一人一人のよさを発揮・発見できる集団の育成を進めている。

また、教職員全員が、全ての学年の子ども達にかかわり、学校全体で、子どもを育てることができている。これらの取組により、子ども達は、日々安心して学校生活を送ることができている。

学力方面については、日々きめ細やかな学習や帯タイムを活用した様々な取組を継続的に実践することで、基礎学力の定着が進めている。令和7年度の「全国学力・学習状況調査(6年)」は、全国平均を上回った。さらに「大阪市小学校学力経年調査(3~6年)」の国語科・算数科について、3年生の算数科は若干下回ったが、その他はすべて大阪市平均を上回っている。

体力方面については、1年生時から体力テストに挑戦し、経年で記録の伸びがわかるようにし、児童が積極的に体力・運動能力の向上に取り組むようにしている。出前授業を積極的に取り入れたり、学年を超えて一緒に遊ぶ機会を設定し思い切り遊んだりすることで、体力の向上を目指している。令和6年度からは、放課後に希望者を募り「野球しようぜ」の取組を実施している。しかしながら運動をする場は設定しているものの経年調査の意識調査「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目では、最も肯定的に回答した児童の割合は65.8%であった。これは大阪市平均より3.4ポイント低い結果であった。今後も児童が、運動が好き・楽しいと思える体育授業や運動の楽しさを味わわせる取組を模索していく。

教育環境の整備では、教職員の指導力・授業力の向上のために、毎年計画的に授業研究や研修を行っており、昨年度から2年間、ICT機器を活用した指導方法について研究を行い、一定の成果が見られた。さらに教員の資質が向上するように、また効果的にICT機器を活用することができるように、今年度も研修などに取り組んでいく。

中期目標 令和4年度（2022年度）～令和7年度（2025年度）

【安全・安心な教育の推進】

- 学校安心ルールをもとに生活指導を行い、毎年2回自分の言動について振り返りをさせ、ルールの徹底を図る。いじめ問題・不登校等の問題行動の未然防止・早期発見・迅速な対応に努める。様々なアンケートにおいて、「学校に行くのは楽しいと思うか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を大阪市の目標（85%）以上にする。

（児童アンケート97% 経年調査90.3% 経年調査大阪市平均83.5%）

- 小規模校の特性を活かし、異学年との交流を積極的に行い、互いの違いを認め合い、一人一人のよさが発揮できる集団の育成に努める。アンケート「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を大阪市の目標（77%）以上にする。

（経年調査97.2% 経年調査大阪市平均82%）

- きまりを守る・正しいことばづかいをする・あいさつをするなど、基本的な道徳心・社会性の育成を図る。それぞれ85%以上をめざす。

（児童アンケート きまり92%、正しいことば93%、あいさつ94%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 「全国学力・学習状況調査」「大阪市小学校学力経年調査」等、経年的に行われる調査結果のデータを活用し、一人一人の子どもの状況を把握し、学力向上に向け個に応じたきめ細かな指導・支援の充実を図る。「全国学力・学習状況調査」「大阪市小学校学力経年調査」の国語・算数の平均正答率の対大阪市比を上回るようにする。

（全国学力・学習状況調査は達成、経年調査はほぼ達成）

- 学年の実態に応じて「主体的・対話的で深い学び」の授業を実践する。アンケート「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を大阪市平均以上にする。

（経年調査65% 経年調査大阪市平均41.6%）

- 主体的に運動する習慣が身につくよう、体育の授業を工夫・改善し、楽しく体力を高める場や機会を設定する。小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を大阪市平均以上にする。

（経年調査65.8% 経年調査大阪市平均69.2%）

【学びを支える教育環境の充実】

- ICT機器を活用し、児童に「自分で考え判断する力」「自分の考えを豊かに伝える力」「最新のICT機器を活用する力」を育成する指導方法を研究・実践する。教育情報利用パソコンなど、ICT機器を毎日活用する。

- 毎週木曜日に「ゆとりの日」を設定し、教職員の働き方改革を推進する。

- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組み、教員の授業力・指導力の向上を図る。年間を通じて、計画的に授業研究会・公開授業に取り組む。

- 学校図書館を活用した調べ学習や読書活動の活性化を図る。

- 保護者・地域に向けて積極的に情報発信・情報共有を行う。（学校ホームページ・保護者メール・学校協議会）

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を89.3%以上にする。
経年調査 90.3%
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。
経年調査 97.2%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。
経年的に比較し国語・算数ともポイントを向上させていない学年はあるが、全国よりは上回っている。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を62.3%以上にする。
R7経年：65%
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を67.7%以上にする。
R7経年：65.8%

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%（大阪市の令和7年度の目標）以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。）
1月末 86.2%
- 第二期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を75.1%以上にする。
1月末 基準1 93.75%

【その他】

3 本年度の自己評価結果の総括

「子どもたちのために」「子どもにとって、何が大切か」を常に念頭におき、教職員一丸となって教育活動全般に取り組んできた。職員室の雰囲気も良く、コミュニケーションを多く取りながら常に共通理解を図り、風通しの良い職員室を心がけてきたことで、教職員のチームワークの良さが子どもたちの温かいムードにつながっていると感じている。

「安心・安全な教育の推進」では、「学校に行くのは楽しいと思いますか」「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的回答は、共に90%を超え、子どもたちが楽しく学校生活を送っていることがうかがえる。自己肯定感も強いことから、自信をもって自分らしく生活できていることがとても嬉しく感じる場所である。たてわり活動の時には「いいところみつけ」を実施するなど、友達のいいところを見つけ、「評価したり」「評価されたり」する経験がこの結果の一要因でもあるので、引き続き子どもたちの自己肯定感を高める活動を実施していきたい。「学校のきまりを守る」「すすんであいさつする」の項目に関しては、特に重視しながら継続して指導していく必要がある。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」では、ICT を効果的に取り入れた授業改善に力を入れ、校内研修や実践交流会を通して、まずは教職員の ICT 活用能力の向上を目指した。また、話し合い活動を積極的に取り入れることで児童の「わかった・できた」を実感できるような授業展開を工夫した。それらのことが功を奏し、学力経年調査では高得点をマークし、目標を達成することができた。東っこ学期末漢字テストや校内タイピング検定、C-NET と連携した授業など、子どもが目標をもって「楽しく」学習できるような取組を校内で推しすすめられたこともよかったと感じている。今後も子どもたちの「できた・わかった」を大切に、興味をもって学習に取り組めるよう、指導力向上に努めていきたい。体力の向上においては、体を動かすことは好きな児童は多いものの、実際に体を動かす時間が短いことが分かった。体育の時間を中心に、ますます体を動かすことの楽しさを知り、体を動かすことが好きになるような活動を今後取り入れていく。家庭とも連携を図りながら体力向上に努めたい。食育や保健指導についても今後も継続指導し、充実を図っていく。

「学びを支える教育環境の充実」では、「授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%（大阪市の令和7年度の目標）以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。）」の項目において、1月末の時点で86.2%となり、日頃より児童が ICT 機器を頻繁に使用しているということがわかる。今後も ICT 機器を活発に活用できるよう、教職員の ICT 活用能力を高めながら、児童の活用率を維持できるよう継続して研修・研究を深めていくとともに、校内タイピング検定など、児童が抵抗なく当たり前のようにパソコンに触れられるよう、工夫していく。さらには、教員の時間外勤務時間も縮小されたので、今後も仕事の効率化を測れるよう、継続して取り組む。

子どもたちも教職員も自分らしく、相手のことを尊重し、敬いながら学校生活を送ることができている「今」、この現状を維持することが今後の課題であるといえる。学校、地域、家庭がますます連携し、ウェルビーイングな社会を目指して今後も学校運営をすすめていきたい。

(様式2)

大阪市立九条東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を89.3%以上にする。 R7経年:90.3%</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。 R7経年:97.2%</p>	A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【(1) 安心・安全な教育環境の実現】</p> <p>○ いじめや暴力行為、不登校など、問題行動について未然防止・早期発見・迅速な対応に努める。</p> <p>○ 職員会議や児童理解全体会、生活指導委員会で話し合われた内容を共有し、日々の指導にあたる。</p> <p>○ 学校全体で子ども達が相談しやすい雰囲気醸成する。</p> <p>○ 毎朝玄関に立ち、登校してくる児童の安全を確認する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○ 令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについての解消率100%を目指す。 R7校内:100%</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 R7経年:92%</p> <p>○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率0%を目指す。 R7校内:2%</p> <p>○ 「学校安心ルール」を活用し、年に2回(前期・後期)、自分の言動について振り返らせる。</p> <p>○ 「スクリーニングシート」を作成し、学期に1回以上スクリーニング会議を実施し、児童の小さな変化も教職員全体で共有する。また、区役所こどもサポートネットと協働して、スクリーニング会議Ⅱを実施する。</p> <p>○ 校内児童アンケートにおいて、「学校は、楽しいですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。R7校内:97%</p> <p>○ 校内児童アンケートにおいて、「困ったときに、先生は、話を聞いてくれますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。 R7校内:100%</p>	A

<p>○ 校内児童アンケートにおいて、「困ったときに、助けてくれる友達はいですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。 R 7校内：100%</p> <p>○ 連絡なく欠席または遅刻している場合は、養護教諭を中心に毎朝家庭に連絡をする。欠席や遅刻が続くような場合は、家庭訪問を行い、保護者の協力を得て児童の登校を促す。</p>	
<p>取組内容②【(1) 安心・安全な教育環境の実現】</p> <p>○ 毎月の生活目標の周知を行い、きまりを守ろうとする意識を高める。</p> <p>○ 場に応じたあいさつや言葉づかいができる子を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○ 校内児童アンケートにおいて、「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を92%以上にする。 R 7校内：92%</p> <p>○ 校内児童アンケートにおいて、『おはようございます』『さようなら』などのあいさつをすすんでしていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。 R 7校内：94%</p> <p>○ 校内児童アンケートにおいて、「正しいことばづかいをするよう、こころがけていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。 R 7校内：93%</p>	A
<p>取組内容③【(2) 豊かな心の育成】</p> <p>○ 学校行事やたてわり班活動、クラブ活動、委員会活動等の異学年交流や学級活動を通して、互いの違いを認め合い、一人一人のよさが発揮できる集団を育成する。</p> <p>○ 「いいところみつけ」を全校で年間を通して取り組む。</p> <p>○ インクルーシブ教育を推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○ 小規模校の特性を活かし、異学年との交流を工夫し毎週行う。(児童集会・たてわり班遊び・たてわり清掃・ペアタイム等)</p> <p>○ 校内児童アンケートにおける「友達のいいところみつけができていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。 R 7校内：97%</p> <p>○ 校内児童アンケートにおける「たてわり班やペア学年での活動は楽しいですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする R 7校内：97%</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を77%以上にする。 R 7経年：97.2%</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を96%以上にする。 R 7経年：100%</p>	A

<p>○ 合理的配慮の観点に基づく、個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成、毎学期見直し、インクルーシブ教育を推進する。</p>	
<p>取組内容④【(2) 豊かな心の育成】</p> <p>○ 体験学習を通して、発達段階に応じたキャリア教育を実施し、好奇心や探求心、職業観を養う。</p> <p>○ キャリア教育の年間計画を立て、実施する。</p>	A
<p>指標</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80.5%以上にする。R7経年：86.1%</p> <p>○ 各学年が年間で1回以上ゲストティーチャーを招いた体験学習を行う。</p> <p>○ 「キャリア・パスポート」の年間計画を作成し活用する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>・計画通りに取り組むことができた。</p> <p>【取組内容①】</p> <p>・学期に1回いじめアンケートを行うとともに、毎月の職員会議後の児童理解全体会、毎週末の連絡会等で、児童理解に努めたことにより、トラブル等を未然に防ぐことができた。また、トラブルが起こったときには管理職とも連携し、職員会議や連絡会でその内容と対応を全体で共有し、指導にあたった。その結果、校内児童アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は95%、経年調査は92%と目標を達成することができた。</p> <p>・毎朝養護教諭を中心に、複数の教員が玄関前での安全確認を行うことで、児童の様子や実態把握に努めた。連絡のない欠席や遅刻に対しては、必ず保護者に連絡を取り、管理職にも報告している。その結果、遅刻の回数が減った児童もいる。この取り組みは、課題を抱えている児童の発見につながる場合もあるので、今後も継続する必要がある。</p> <p>・たてわり班活動や隣接学年との活動で、教職員が児童と関わる機会が増え、児童はいろいろな教職員と関係を築くことができ、相談しやすい雰囲気を作ることができた。学校全体で風通しの良い雰囲気ができている。</p> <p>【取組内容②】</p> <p>・毎月生活目標を教室に掲示するとともに、毎週月曜日の児童朝会で、看護当番の教員から生活目標について話すことで、児童にきまりを守ろうという意識をもたせることができた。</p> <p>・朝、教職員が正門に立ってあいさつをしたり、児童会であいさつ運動を実施したりすることで、あいさつへの意識が高まった。その結果、校内児童アンケートの「すすんであいさつをしていますか」の項目では、肯定的な回答をする児童の割合は94%と目標の数値を上回った。しかし、場にあった言葉づかいについては今後も指導していく必要がある。</p> <p>【取組内容③】</p> <p>・児童は学校行事やたてわり班活動、ペアタイム、クラブや委員会活動などを通して、他学年の児童と関わる機会が増え、異学年の友達のいいところも見つけることができています。また、たてわり班活動の最後に「いいところ」を発表し合ったり、「いいところみつけ」のカードに書いて掲示したりすることで、互いのよいところをさらに認め合うことができた。</p> <p>・特別支援学級担任を中心に、年間2期に分けて個別の支援計画と指導計画を振り返り見直しを行っている。さらに、内容を見直し、児童それぞれに合った目標や合理的配慮を考え、児童に応じた取り組みを行うことができた。</p>	

【取組内容④】

- ・どの学年でも年 1 回以上、ゲストティーチャーを招いた出前授業を行い、児童は楽しく活動することができた。また、専門家と触れ合うことで、スポーツや文化、芸術の良さを味わうこともできた。
- ・「キャリア・パスポート」の年間計画を作成し、学期の初めや終わり、行事があるごとに活用し、目標の設定や振り返りに役立てることができた。

次年度への改善点

【取組内容①】

- ・今後も継続して学校の教職員全員で児童を見ていく。
- ・遅刻欠席等の連絡はミマモルメを利用する保護者が増えてきている。今後も遅刻・欠席状況等が早急に把握できるミマモルメの活用を促していく。家庭の都合による電話での対応も必要に応じて行っていく。
- ・不登校児童については、教職員間での情報共有を大切にし、必要に応じて外部の関係機関とも連携を図りながら、個に応じた支援を行っていく。

【取組内容②】

- ・学校のきまりを守ることやあいさつや言葉づかいについて、引き続き指導を行っていく。

【取組内容③】

- ・今後も継続してたてわり班遊びや、たてわり清掃、ペアタイムを続けることで、さらにお互いのことが分かり合える仲間づくりに取り組んでいく。
- ・さらなる少人数化が進むため、活動内容を変更するなど、児童が異学年との交流を楽しめるような活動を考えていく。

【取組内容④】

- ・探求心や好奇心、職業観を養うためにも、今後も体験学習を継続して行っていく。回数と内容は精選し、より実り多いものにする。

大阪府立九条東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。 経年的に比較し国語・算数ともポイントを向上させていない学年はあるが、全国よりは上回っている。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を62.3%以上にする。 R7経年: 65%</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を67.7%以上にする。 R7経年: 65.8%</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【(4) 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○ 児童が「わかった・できた」を実感できるようにICT機器を効果的に活用した授業づくりをする。</p> <p>○ 話し合いを通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができるように授業展開を工夫する。</p> <p>○ 東っこタイムを活用し、基礎学力の定着に努める。</p> <p>○ 外国語活動・英語学習では、C-NETや外部講師と協働し、授業を工夫する。</p> <p>指標</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を62.3%以上にする。 R7経年: 65%</p> <p>○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「国語の授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。 R7経年: 83.6%</p>	A

<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「算数の授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。 R 7 経年：86.1% ○ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答をする児童の割合を80%以上にする。 R 7 経年：86.7% ○ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 R 7 経年：87.5% ○ 東っこタイムで、視写、漢字、計算に取り組む。また、「東っこ学期末漢字テスト」を年間3回実施し、正答率を80%以上の児童を80パーセント以上にする。 R 6 1学期91% 2学期92% 3学期96% R 7 1学期94% 2学期87% 3学期 	
<p>取組内容②【基本的（5）健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が積極的に体力・運動能力の向上に取り組めるように「体力テスト記録用紙」を活用し、保護者とも情報共有する。 ○ 体育の指導を工夫・改善するとともに、楽しく体力を高める場や機会を設定する。 ○ 健康週間を設け、手洗い・うがい・歯みがきの習慣を身につけさせる。 ○ 年間指導計画をもとに「食に関する指導」を行い、好ききらいなくバランスよく食べる習慣を身につけさせる。 ○ 各種たよりを年間通じて発行する。 ○ HPと校内掲示での食育・給食・保健関係の情報発信を昨年度と同様に行う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を62.6%以上にする。 R 7 経年：65.8% ○ 学級遊びやたてわり班遊び、ペア遊び等で週1回以上体を動かす機会を設定する。 ○ 校内児童アンケートにおける「自分の健康（手洗い・うがい・歯みがき・姿勢など）に気をつけていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。 R 7 校内：95% ○ 校内児童アンケートにおける「給食を楽しく食べていますか。」に対して、児童の肯定的な回答の割合を80%以上にする。 R 7 校内：96% ○ たより（食育だより・給食だより・保健だより）を月1回発行する。 ○ HPと校内掲示等を活用し、タイムリーな食育・給食・保健関係の情報を発信する。 	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに取り組むことができた。 【取組内容①】 ・定期的な研修や実践交流会を通じて ICT 活用スキルを向上させたことで、作業の効率化による学習時間の確保や情報の視覚的な共有、学習方法の選択により主体的・対話的な授 	

業展開が可能となり、児童の「わかった・できた」という実感や学習の深化に繋がった。

・話し合い活動の導入により児童が思考を深め広げる成果が得られた一方で、少人数ゆえに意見の多様性を確保しにくい課題も浮き彫りとなったため、今後はさらなる授業展開の工夫が必要である。

・「東っこタイム」で漢字、計算、視写に取り組み、基礎学力の定着と学習の補強を行った。また、「東っこ学期末漢字テスト」を全校で実施した結果、指標数値を大きく上回り、目標を達成した。

・C-NET や外部講師と連携し、歌やチャンツを取り入れた楽しい学習を展開した。

【取組内容②】

・「体力テスト記録用紙」の活用により児童が自らの成長を実感し意欲が高まったことに加え、校庭開放やたてわり遊び・野球体験の実施、さらには体育授業での積極的な ICT 活用により、児童の運動に対する主体的・積極的な姿勢が向上した。

・学期ごとの健康週間における「がんばりカード」の活用や、けんこう委員会による動画・掲示物を用いた啓発活動により、児童の衛生習慣が定着した。校内アンケートの健康意識に関する肯定的な回答が 95%に達し、目標を達成した。

・栄養教諭による給食クイズや調理工程の動画視聴を通じて、食への関心と給食調理員の方への感謝の気持ちが深まるとともに、年間指導計画に基づく食育の推進がバランスの良い食習慣の形成に繋がった。校内アンケートの「給食を楽しく食べていますか」に対する肯定的な回答が 96%に達し目標を達成した。

・毎月、食育・給食・保健の各種だよりを定期発行し保護者への啓発と情報共有を図るとともに、学校 HP や校内掲示を活用したタイムリーな情報発信を継続して行った。

次年度への改善点

【取組内容①】

・引き続き授業展開を工夫し、誰一人取り残さないための学習支援を継続する。

・来年度も ICT 機器の効果的な活用を意識した授業を実践していく。

・漢字や計算などの学習において、今後も「東っこタイム」を継続的に活用し、定着を図る。

・児童数が少なく、話し合いを通じて考えを深めたり広げたりすることが難しい場合があるため、さらなる授業展開の工夫が必要である。

【取組内容②】

・児童が自ら健康を意識し、知識を増やすとともに、手洗い・うがい・歯みがき・姿勢などの行動をより主体的に実践できるよう工夫する。

・事前指導用のスライドや掲示物について、児童の実態に応じた内容のものを作成し、継続して活用する。

・各種だよりなどによる家庭への情報発信を、今後も継続して実施する。

・児童が健康的に過ごせるよう、定期的な繰り返し指導に引き続き取り組む。

大阪市立九条東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%（大阪市の令和7年度の目標）以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。）</p> <p style="text-align: center;">1月末 86.2%</p> <p>○ 第二期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を75.1%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">1月末 基準1 93.75%</p>	A
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【(6) 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>○ 教育情報利用パソコンなど、ICT機器を毎日活用する。</p> <p>指標</p> <p>○ 「navima」や「心の天気」を日常的に活用する。</p> <p>○ 各学年のICT到達目標に応じてICTスキルを向上させる。</p> <p>○ 調べ学習や発表資料の作成等に活用する。</p> <p>○ 校内児童アンケートにおける「学習者用端末を活用していますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">R7校内：100%</p>	A
<p>取組内容②【(7) 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○ 週に1回「ゆとりの日」を設定し、教職員の働き方改革を推進する。</p> <p>指標</p> <p>○ 学校全体の教員の平均時間外勤務時間を30時間以内にする。</p> <p style="text-align: center;">1月末：16時間04分</p>	A
<p>取組内容③【(7) 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○ 「学力向上支援チーム事業」の活用と主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組む。</p> <p>指標</p> <p>○ 全ての教員が、年間1回以上の研究授業または公開授業を計画的に実施する。</p> <p style="text-align: center;">(実施済み)</p> <p>○ メンター研修を年10回実施し、若手教員の指導力・授業力等の向上を目指す。</p> <p style="text-align: center;">(2月末：9回)</p>	A
<p>取組内容④【(8) 生涯学習の支援】</p> <p>○ 学校図書館を活用した調べ学習や読書活動の活性化を図る。</p> <p>○ 児童が本に親しむことができる環境を整える。</p> <p>○ ブックトラックの運用や「こども新聞」の掲示等、言語環境を充実させる。</p>	A

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内児童アンケートにおける「読書は好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を76.5%以上にする。 R 7校内：88% ○ 図書の年間貸出冊数について、前年度の実績を維持する。 1月60冊（昨年度1月62冊） 	
<p>取組内容⑤【(9) 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校ホームページや保護者メールを活用し、保護者や地域に向けて積極的に情報発信・情報共有を行う。 ○ 学校協議会を定期的を開催し、積極的な協議を行い、学校運営に反映させる。 ○ 保護者向けに「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習の定着を図る。 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業中は、学校ホームページの更新を毎日2回以上行う。 ○ 学校協議会を年3回開催し、協議内容を学校運営に積極的に反映させる。 ○ 「家庭学習の手引き」を毎年1回配付し、保護者の意識を向上させる。 配布済 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに取り組むことができた。 【取組内容①】 ・学習者用端末を日常的に活用しており、習慣化している。 ・「心の天気」や「navima」は朝の活動や学習の隙間時間に定着して活用されている。 ・各教科において、学習内容に応じて端末を適宜活用している。 ・Canva、Google スライド、スプレッドシートを活用し、発表資料・交流資料などを作成している。 ・インターネットを活用した調べ学習が行われている。 ・端末の継続的な活用により、児童の ICT スキルが向上している。 ・タイピング検定を実施し、児童のタイピングスキルが向上した。 ・各学年の ICT 到達目標に応じた学習を進め、スキルアップにつながっている。 ・校内研究で ICT 活用をテーマに取り組んだことで、教員の ICT スキルも向上した。 ・教員のスキル向上に伴い、授業での ICT 活用機会も増加した。 ・「学習者用端末を活用していますか」に対して、肯定的回答が 100% となり、目標の 80% を大きく上回った。 【取組内容②】 ・「ゆとりの日」の実施により、計画的に業務を進めようとする意識が高まっている。 ・ゆとりの日以外でも、各教職員が時間外勤務を減らそうとする意識が広がっている。 ・1月末時点の教職員平均時間外勤務時間は16時間04分となり、指標の30時間を大きく下回って目標を達成している。 【取組内容③】 ・全ての教員が、年間1回以上の研究授業または公開授業を計画的に実施した。 	

- ・授業参観や相互助言を通して、多様な視点からの意見を得て授業改善につなげることができた。
- ・月1回程度の実技研修や実践交流会を行い、ICT機器を活用した授業づくりのスキル向上を図った。
- ・メンター研修を計画的に実施し、若手教員の指導力・授業力の向上につなげることができた。

【取組内容④】

- ・週に2回の読書タイムを設け、児童が読書に取り組む時間を確保することができた。
 - ・図書委員会による活動（読み聞かせ・おすすめの本紹介・読書ビンゴ・読書マラソンカードなど）が、児童の読書意欲向上につながった。
 - ・図書委員（週2回）と図書館補助員（週1回）による図書館開放で、児童が自由に図書館を利用できる環境が整えられた。
 - ・「ブックトラックの運用」や「子ども新聞」の掲示により、言語環境が充実した。
 - ・図書館の環境整備や活動の充実により、児童が積極的に読書に取り組めるようにした。
 - ・図書委員会の催しや学期末の表彰が、児童の読書への興味を高めるきっかけとなった。
- その結果、児童アンケート「読書は好きですか」で肯定的回答が88%となり、目標（76.5%）を達成した。

【取組内容⑤】

- ・学校協議会を年3回計画的に開催し、協議内容を学校運営や目標設定に反映している。
- ・「家庭学習の手引き」を年1回配付し、学年に応じた学習時間の目安や目標、内容などの情報を家庭へ発信することができている。
- ・学校ホームページを毎日更新し、保護者や地域に向けて積極的に情報発信・情報共有を行うことができている。各学年の学習の様子なども頻繁に掲載している。

次年度への改善点

【取組内容①】

- ・学習において、タブレット端末を効果的に活用する方法を引き続き模索・実践する。
- ・学習者用端末を日常的に適切に活用し、児童のICTスキル向上と学年ごとのICT到達目標の達成を図る。
- ・情報モラル・メディアリテラシーについて、チェックリスト等を活用しながら継続的に理解を深める指導を行う。
- ・教職員のICTスキル向上にも継続して取り組む。

【取組内容②③④⑤】

- ・継続して取り組む。